

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 106人

② 算数 106人

5 留意事項

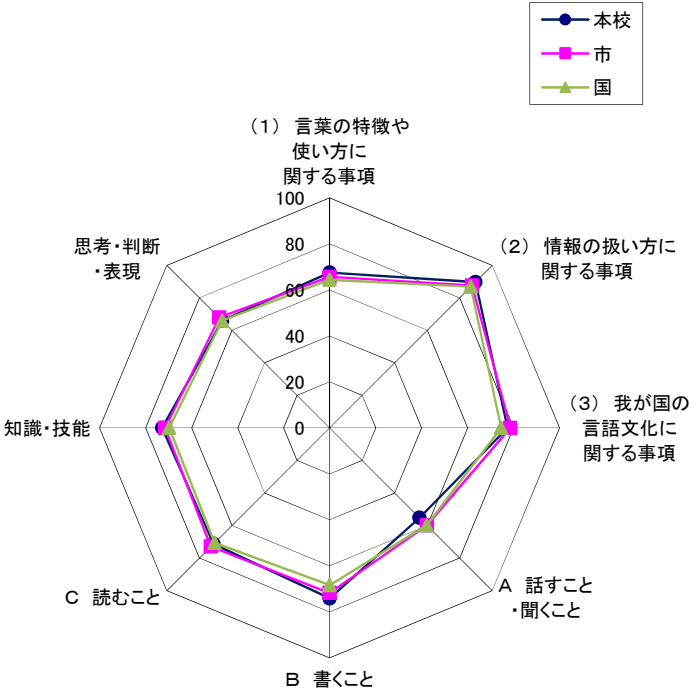
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	67.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	89.6	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.4	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	55.3	59.9	59.8
	B 書くこと	74.1	71.8	68.4
	C 読むこと	71.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	72.8	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.0	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

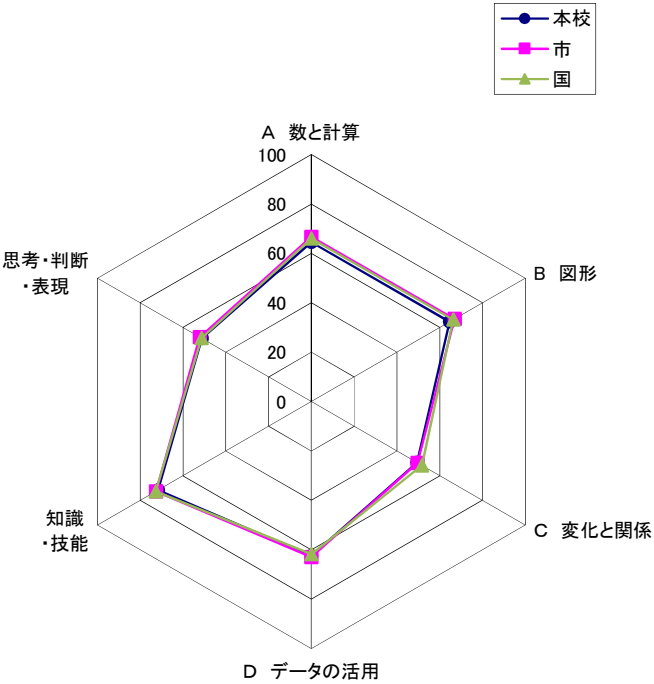
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	平均正答率は、全国平均を3.1ポイント上回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問における正答率は、全国平均を6.1ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、授業の導入や朝の学習の時間などで、既習の漢字の定着を図る。また、その前後の文脈を解説し、漢字の意味を推察させる習慣を身に付けさせる。
(2) 情報の扱い方に 関する事項	平均正答率は、全国平均を2.7ポイント上回っている。 ○「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」設問においては、正答率が89%と高くなっている。	・児童が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめる学習活動を授業内に構成していく。
(3) 我が国の言語文化に 関する事項	○平均正答率は、全国平均を2.8ポイント上回っている。 「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」設問においては、全国平均をやや上回っている。	・今後も読書の充実を図ることで知識を豊かにし、様々な場面で生かすとともに、自分の考えを広げる手立てとなるようにしていく。 ・学習の終末に振り返りの時間を確保し、身に付いた力を実感できるような機会を設けていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を3.3ポイント下回っている。 ○「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかみる」設問においては、全国平均をやや上回っている。 ●「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」設問においては、全国平均を9.1ポイント下回っている。	・互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合いを進めていけるようにする。 ・他教科や教育活動とも関連を図り、児童の日常生活に生きて働くように話し合いの場を設定していく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を5.7ポイント上回っている。 ○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」設問においては、全国平均を5.5ポイント上回っている。 ●条件を満たして文章で記述する設問では、正答率が62.3%と低くなっている。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながらいったり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。 ・学習のまとめや振り返りの際に、大事な言葉を指定してまとめさせたり、調べたことや読み取ったことを理由や事例にして自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を0.7ポイント上回っている。 ○「人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる」設問においては、全国平均を7.7ポイント上回っている。 ●「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」設問においては、全国平均を8.4ポイント下回っている。	・物語を読んで心に残ったところとその理由など自分の考えを伝えられるよう、文章の描写に根拠を求めて読み取るよう指導していく。 ・自分の考えを交流する際にはポイントを示し、観点に沿った話し合いや読み取りができるようにする。

宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.5	66.7	66.0
	B 図形	64.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	49.4	49.6	51.7
	D データの活用	62.5	62.9	61.8
観点	知識・技能	71.7	72.6	72.8
	思考・判断・表現	51.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を1.5ポイント下回っている。 ○無回答率は全国平均より低い。どの設問でも、正答率は、全国平均を上回るかほぼ同じである。「数量の関係を口を使った式に表す」「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさについて理解している」設問における正答率は、全国平均をそれぞれ、3ポイント、2.6ポイント上回っている。	・乗法や除法の計算の仕方を継続的に反復練習した成果と考える。今後も、取り組みを持続し、基本的な計算の技能の定着を図っていく。また、習熟度別学習を生かし、個に応じた支援の充実を図る。 ・無回答率が低かったことは、粘り強く取り組む指導の成果であると考えられる。今後も、学習に対する姿勢や学び方の指導を続けていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均を1.7ポイント下回っている。 ○無回答率は全国平均より低い。「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係」についての設問における正答率は、全国平均を1.3ポイント上回っている。 ●「直方体の見取り図について理解し、かく」「五角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」設問における正答率は全国平均をそれぞれ4.4ポイント、3.1ポイント下回っている。	・実物や模型、一人一台端末などを活用し、立体を実際に操作したり視覚的な面から理解したりできるような授業を展開する。 ・公式を覚えるのみではなく、公式を導き出す過程やなぜそうなるのか理由をきちんと押さえるようにする。また、一つ一つの理由や根拠を筋道を立てて説明する機会を意識的に授業に取り入れ、説明する力を育てていく。誰もが説明できるような話合いの学習形態を工夫する。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を2.3ポイント下回っている。 ○無回答率は全国平均より低い。「道のりと時間の関係について考察する」設問における正答率は、全国平均を5.5ポイント上回っている。 ●「速さの意味についての理解」の設問における正答率は、全国平均を9.8ポイント下回っている。	・毎時間の授業において、数直線や図などを使い、何を求めたらよいか、何を問う問題かをきちんと把握する指導をする。数直線や図と関連させて、正しく立式できる力をつけていく。 ・時速や分速、秒速などの言葉については、実生活やスポーツニュースなどから取り上げ、興味関心を高め、児童の身近な問題として捉えられるようにする。他教科や日常生活にも生かせるよう、算数以外でも活用していく。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を0.7ポイント上回っている。 ○無回答率は全国平均より低い。「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを数と言葉を用いて記述する」設問における正答率は、全国平均をそれぞれ6.0ポイント、6.9ポイント上回っている。 ●「表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断する」設問においては、全国平均を9.7ポイント下回っている。	・文章や表など複数の示された情報をきちんと把握できる力を身に付けさせるため、資料を正しく読み取る力をつけさせたい。そのために、算数のみでなく、他教科や家庭学習などで意識的に資料を活用し、複数の資料から分かることを読み取ったり結論付けたりする機会や経験を増やしていく。 ・「数値」「以上」などの算数的な言葉の意味については、機会を見付け、繰り返し意味や使い方を確認し、定着を図っていく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

昨年度のデータ

○「朝食を毎日食べていますか」の質問では、97.2%の児童が肯定的回答をしている一方で、「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した児童も2.7%いる。朝食の必要性について、児童に引き続き指導をし、家庭にも呼び掛けていきたい。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が74.5%で、県平均と比較すると5.3%、全国平均と比較すると3.4%高い。引き続きデジタルシティズンシップの育成に向けて、指導を継続していきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が90%で、県平均と比較すると5.8%、全国平均と比較すると7.6%高い。児童の将来の夢に対する高い意欲や必要感を今後も維持し、キャリア教育の充実に努めたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が97.3%で、県平均とは同程度、全国平均と比較すると0.6%高い。今後も、いじめはいけないことだと、いじめO強調月間や、いじめO集会などの活動を通して児童に呼び掛けを続けていきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が79.1%で、県平均と比較すると6%低い。全国平均と比較すると5%低い結果が見られたので、今後も児童の自己有用感を高められるように引き続き指導していきたい。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が79.1%で、県平均と比較すると3.4%低い。全国平均と比較すると1.6%低い傾向が見られた。今後も能動的に自分で考え行動できるように指導していきたい。

宇都宮市立五代小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
- 基礎基本の知識・技能の確実な習得を目指す。 - 主体的に学習に取り組む、自分の力で課題を解決できる手立ての工夫をする。 - コグトレの活用を通して、認知機能の向上を図る。	- 宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。 - 結果の予想や課題解決の仕方や手順など、学習の見通しを立てられるようにする。 - 朝の時間や隙間時間を活用して、コグトレオンラインの問題に繰り返し取り組む。	- 各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を上回っている。 - 漢字や計算に個人差が見られる。基礎・基本となる知識・技能の定着が不十分で、前年度までに身に付けておくべき学力が備わっていない児童もいる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる」の設問の正答率が低い。	目的意識を持って書く力の育成に努める。	- 児童の書きたい思いを引き出せるような題材を設定する。 - 自分の課題にじっくり取り組む習慣をつけることで、日々の授業で、粘り強く取り組み、達成感・満足感を得られるような経験を積むようにする。